

してアメリカ大陸にも拡がり、街路樹としても利用されている。

内容は高度なものだが、監修者もイチョウについての一般向けの本を書く人である上、著者とも顔見知りなので、語り口が自然で分かり易い。イチョウばかりでなく、古植物学や地球の歴史一般についての知識を身につけるのに有用である。

ただ一つ困ったのは、「花粉錐」という用語が頻繁に現れることだ。巻末の索引によると **pollen cone** で、ページにして14箇所もあるが、当たり前の用語らしく、説明がない。岩波生物学辞典には載っていない。花粉関係の書物や用語集関係は身辺整理で送り出してしまったので、手元にない。学生さんにインターネット検索してもらったら「花粉錐」より先に「花粉錘」という単語が出てきた。インターネット検索は便利ではあるが、引用はしたくない。原文では「若葉が出るのと同時に、短枝上に小さな円錐状のものが出来て、その中で花粉が作られる」とある。この「小さな円錐状のもの」は、雄花序そのものを指すように思う。原本によれば、**pollen cone** の出典は Liu X. Q., Li C. S. and Wang. Y. E.: *Bot. J. Linn. Soc.* **152**: 133–144 (2006) なので、そちらをチェックしてもらったら、10頁ばかりの中国の白亜紀の *Ginkgo* についての論文だった。ここでも **pollen cone** は、雄花穂のごく若く短い段階でも、大きく伸びた段階でも気軽に使われていて、便利な表現ではあるが、特別な名前を与えねばならぬようなものとは思えない。私には「**pollen cone**」は「雄花穂」で十分で、次の学術用語集検討の際、新たな用語として採択する必要はないと思う。

(金井弘夫 H. KANAI)

□ Singhadurbar Vaidyakhana Vikas Samti: *Chandranighantu Volume II* A4. 416 pp. 2013. Rs. 2,500 (Nepal Rupee). ISBN 978-9937-2-6903-2.

本誌 89 巻 1 号で紹介したネパール本草図譜の続編で、内容の詳細はそちらを参照されたい。こんなに早く続編が出るとは思わなかった。第一巻もそうだが、刊行年が実際より2年も遡っているのは、予算執行との兼ね合いなのだろう。スタイルは前巻と同じで、本来表裏になっていた文字頁と図頁に、生薬学的な記述を含むネ文英文混合の約2頁が、加えられている。

印刷の出来ばえについては、Vol. I と比べてやや見劣りがする。原本は襖紙のような厚さの紙を綴じたものなので、綴じ目に近い側の映像が、ゆがんだり薄かったりする (p. 134, 150, 177, 216, 236, 289, 308, 320, 340, 349, 352, 366) のはやむを得ないが、色版のズレや、バランスが悪くて夕日が当たっているような絵になったり (p. 115, 119, 123, 135, 139, 241), 文字が二重に見えたりする (p. 320, 336) ところがある。印刷の際に、著者側の監督が行き届かなかった感じがする。Vol. I では、前記のような欠点は気付かなかった。この調子で進行するのなら、全10巻の撮影は既に終わっているのかも知れないが、細心な点検が必要だろう。

The 2nd volume of *Chandranighantu*, an illustrated Nepalese herbal encyclopedia, introduced in this journal **89**(1): 56–58 (2014). Unusual color balance is detected in a few cases requiring careful check. This book is available only from the government office noted in the previous number, not from bookshop.

(金井弘夫 H. KANAI)

91巻2号 正誤(2016) Errata in Vol. 91 No. 2 (2016)

| ページ (Page) | カラム (Column) | 行 (Line) | 誤 (For) | 正 (Read) |
|------------|--------------|----------|---------------|---------------|
| 105 | Author name | ↓ 5 | Mahoro SUZUKI | Suzuki MAHORO |